



Handwritten text in a circular stamp on aged, stained paper. The text is written vertically and includes the characters "C. S. 1871".

A blank, aged, yellowish page with a blue border on the right side, showing signs of wear and discoloration.



天保四癸巳年

元旦

来

阿吉

志

北村果

...





喜興

一弓

後一子

不二庵

梅このこり

鳴こり



海氣

五梅菴

夢こり

醉こり

夢こり

夢こり





雪の

あふ

あふ

あふ

全



和陽

雪の

あふ

あふ

雪の

あふ





東風

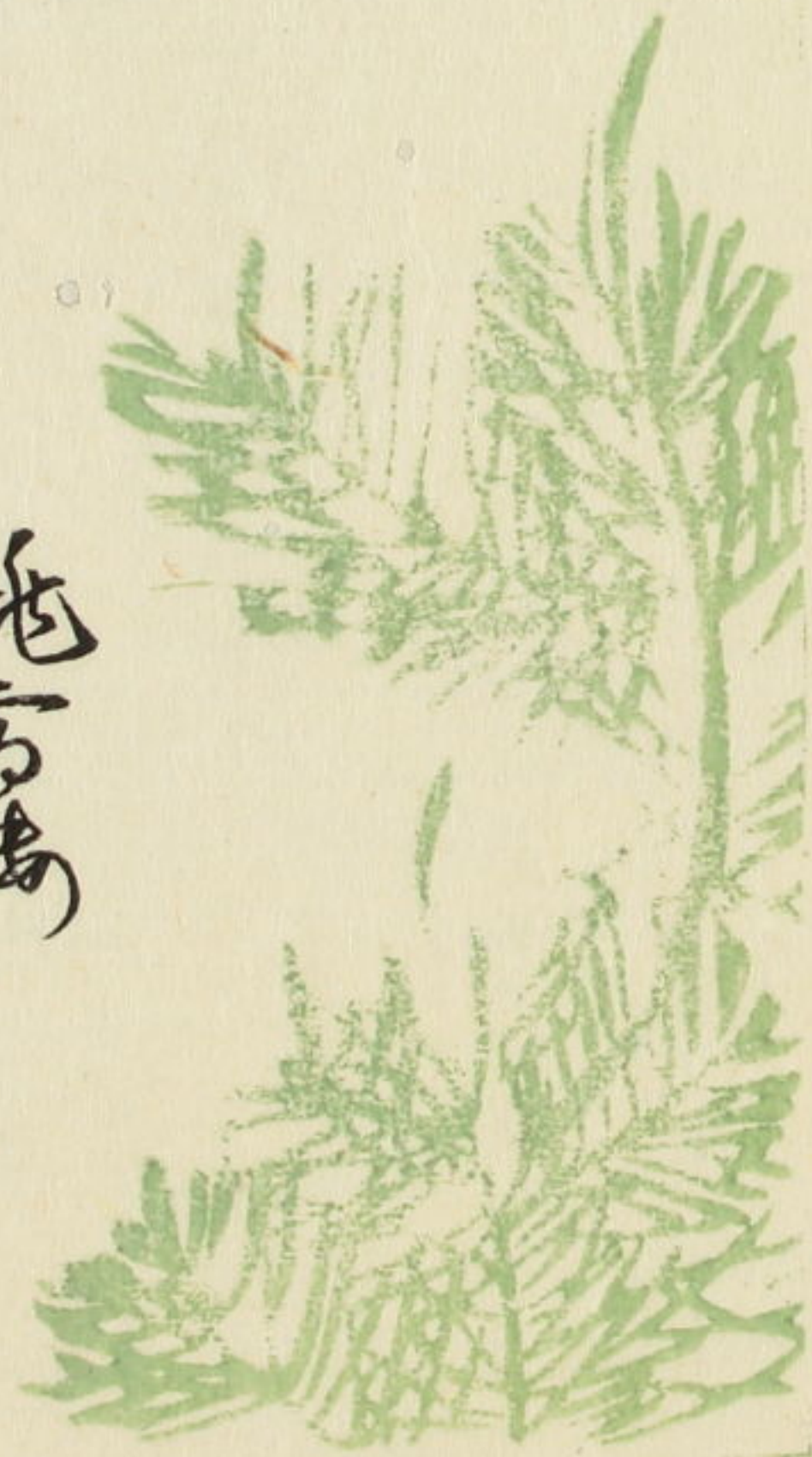
梅子月

一板抄本

梅子之香

梅雪梅

茉莉



湖中

雲

結

全

碧色園





更始  
 連珠  
 水簾  
 千流  
 松の雨



松  
 雨  
 全  
 松の雨





松齡

古河元也

新小雀山

山崎の

旭梅樓

神谷



梅田也

彦

山崎の

山崎の

山崎の

全



山崎



悪筆

月の出る

かみ

おひら

と

暖筆

雲



と

勇心

まの

く

子

全



藤



青柳

憶

美人

寄



梅雪梅

月影

家

々

々

々

々

櫻

全



梅



東君

水閣

心

長八東

静



梅

駒

之

女

櫻

心

全



静



彩霞

東雨

春と秋

梅と雪



槐雪梅

梅雪

如夢

らん

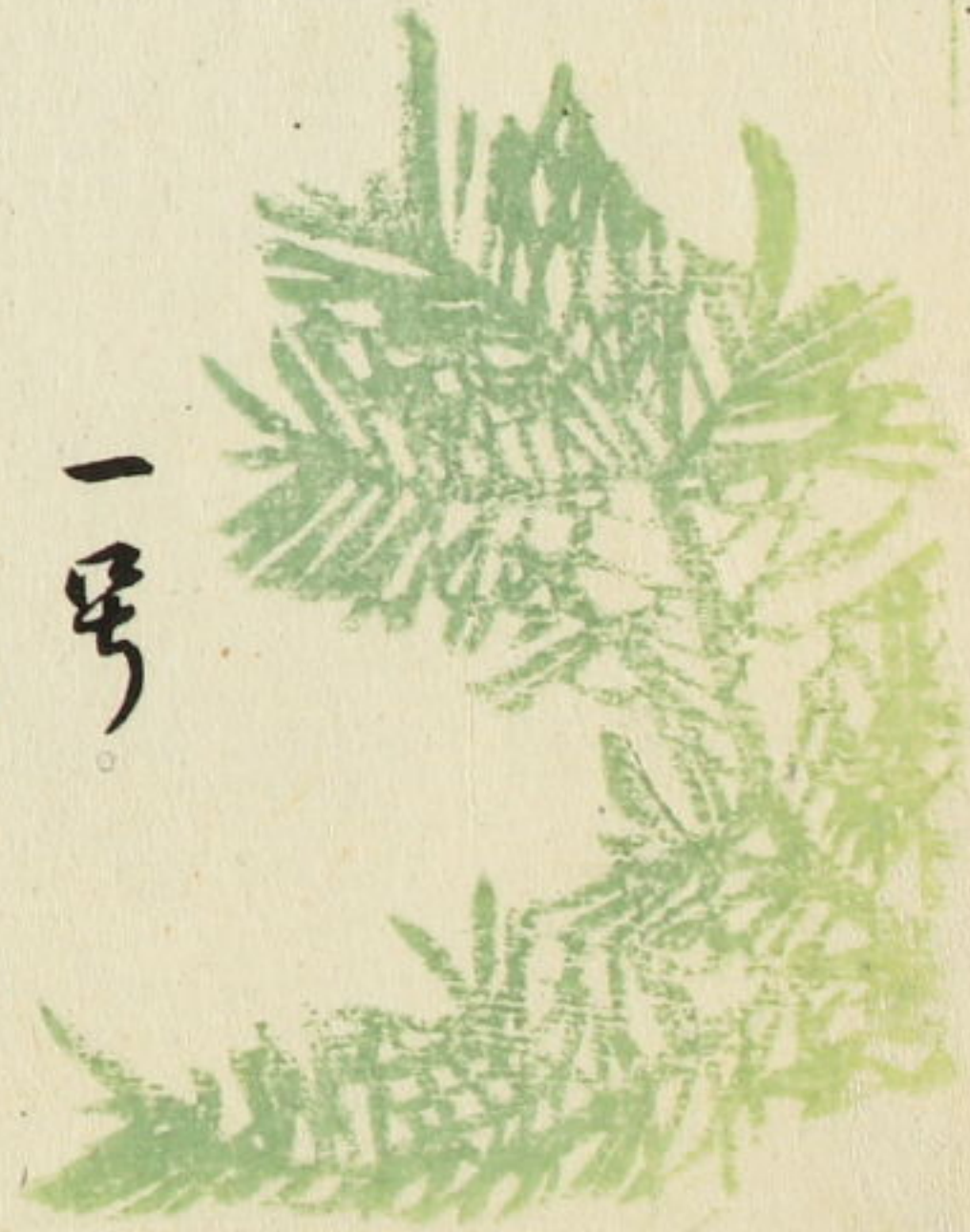
春の

如月の

流る江

一斗

如雪



梅雪



13

14

芳妻

橋を撰く

うらみの毒の毒

お庭うら

賀正橋

風雛



岸

13

うら

うら

うら

うら

うら

全



岸

14



蒼陽

李の影

新の影

影の影



白雪梅

柳柳

斜の

ふ

起

の

影の影

全



柳柳



清旦

きんぎょめ

小所門きり

髪結のめ

結橋

騎竹



きんぎょ

きり

梅の歌

斗

きんぎょ

全



唐十三



暖知

何れも

深きや底

高む月

暖知

深き



緒

あ

い

り

ふ

今



三



香

何年か

まはる梅の

香七喜

少子孫

平野女



二つ時

枝を

弱し

は

美の心

今



辨利

平野

平野

平野



清辰

さのしり

梅の葉を

ゆき

雪梅

川



まの

まの

まの

まの

まの

まの



神

まの



東京

弱多事也

長

照日

繁壽身

花松女



波音

さるなり

月の

破花い

全



扇



韶光

舟揚々

こゆめ徳也

梅のこ

花月堂

李洲女



中園

こゆ

ゆめ

海の上

全



花月堂



花鳥

あはれいさな

きんぎょ

後節

庭々亭

李有女



花鳥

全

男猫うら

丸め

花鳥

るの上



花鳥



改心

守書

心

心

心



皇朝  
不保  
書旭

人の日

心

心

心

心



皇朝  
不保  
書旭



遅日

存分

雪乞

不塞

ふらふら

梅



梅

梅

ふ

梅の月

今



梅



中のよ

隣と

出す

梅穂

全



巻十一

真

白屋の来順  
河書を船

由花あんこん結い  
張らるる時

下色伝達

持志

尺さすもむ仕替はの事大御前  
三々七々くおのりさき二日全

園城

浮美の来日さるる花の風

強府中

秀所

さるるさるる

さるるさるる



波留の山

波留の山

波留

波留

波留中

波留中

波留中



波留

波留

波留

波留



波留中

波留中



梅板

うき

うき

うき

うき

近江日守

町橋

吉原歌



全

上総市愛連

片里千舟のうきと梅の板

未覚

馬のうきと梅の板

、

うきと梅の板

山齋

うきと梅の板

、

舟のうきと梅の板

其舟

陽のうきと梅の板

、

舟のうきと梅の板

信陽



狂言の甚くはるもまゝの雨

全

武石川邊

ふさふさやま何処までよのま 儿石

おのつゝ持姫のなす物のなる 木石

暮の白や一万坪の葉のま 木石

一ふのぬきま里邊一まの軒 木石

雪のふりよの書物も何の梅のま 如牛

我ころり水も思はしまの軒 木石

秋挽く梅もまのぬきま 孝山

梅も信く梅つむまのまのま 木石

墨磨とまのぬきまのま

ふの進く梅もまのまのま 木石

梅もぬき根つゝ人まのまのま 如水

あふけの枝の序も梅のまのま 木石

あつ梅もまのまのまのま 木石

梅もまのまのまのまのま 木石



全

渡浪津連

鶯の節多やうは心ね織を 勢狸

月と来とくぬく梅の客 士

ちほりやうふ余州松の全 士

梅のうのぬくもる庵の全 馬

いぬもやう田舎のまも世も全 馬

せぬとよくたふのまもる全 馬

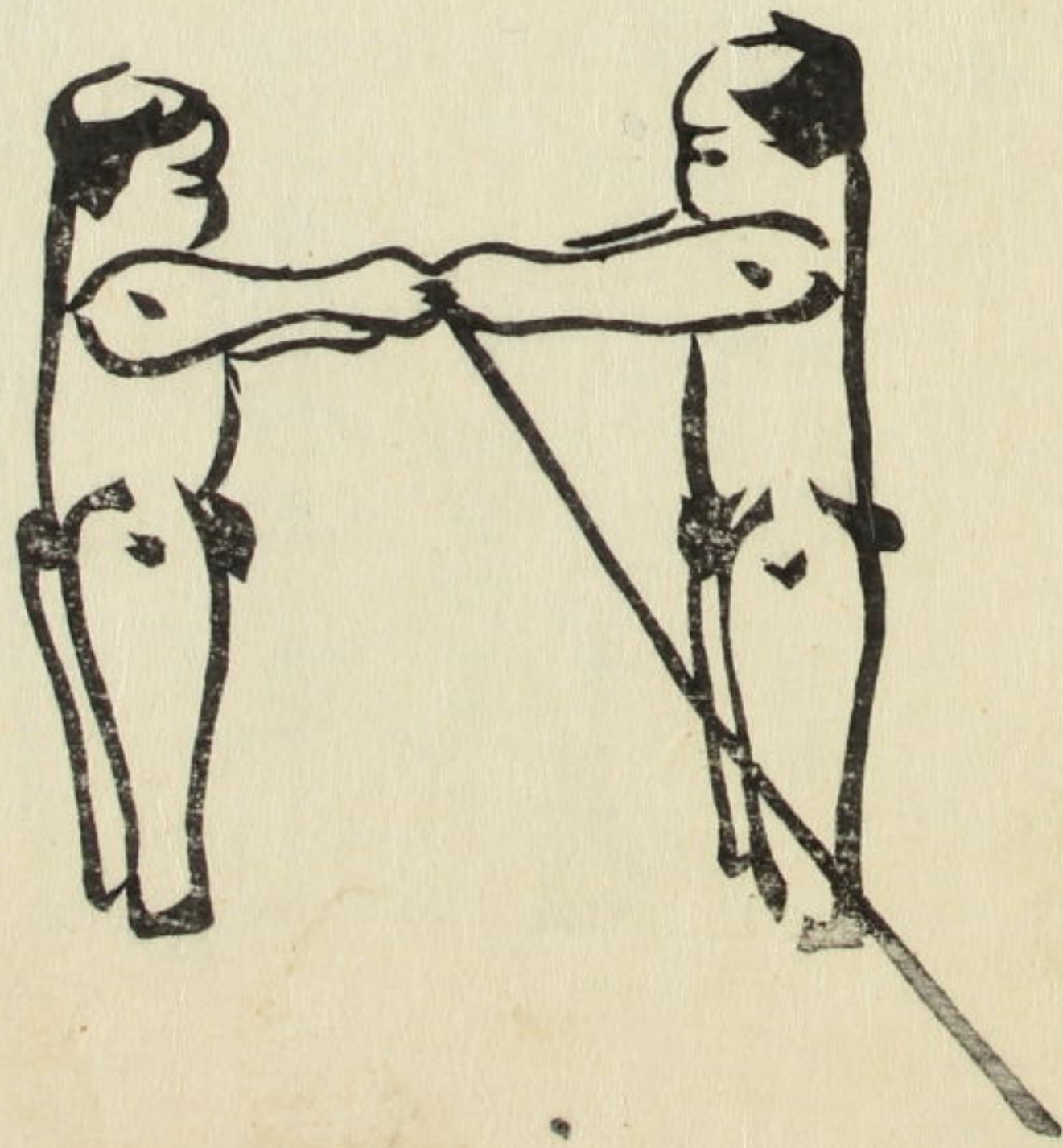
全

福多村

てつ

てつ

てつ



茶部

時雨

勢狸

2





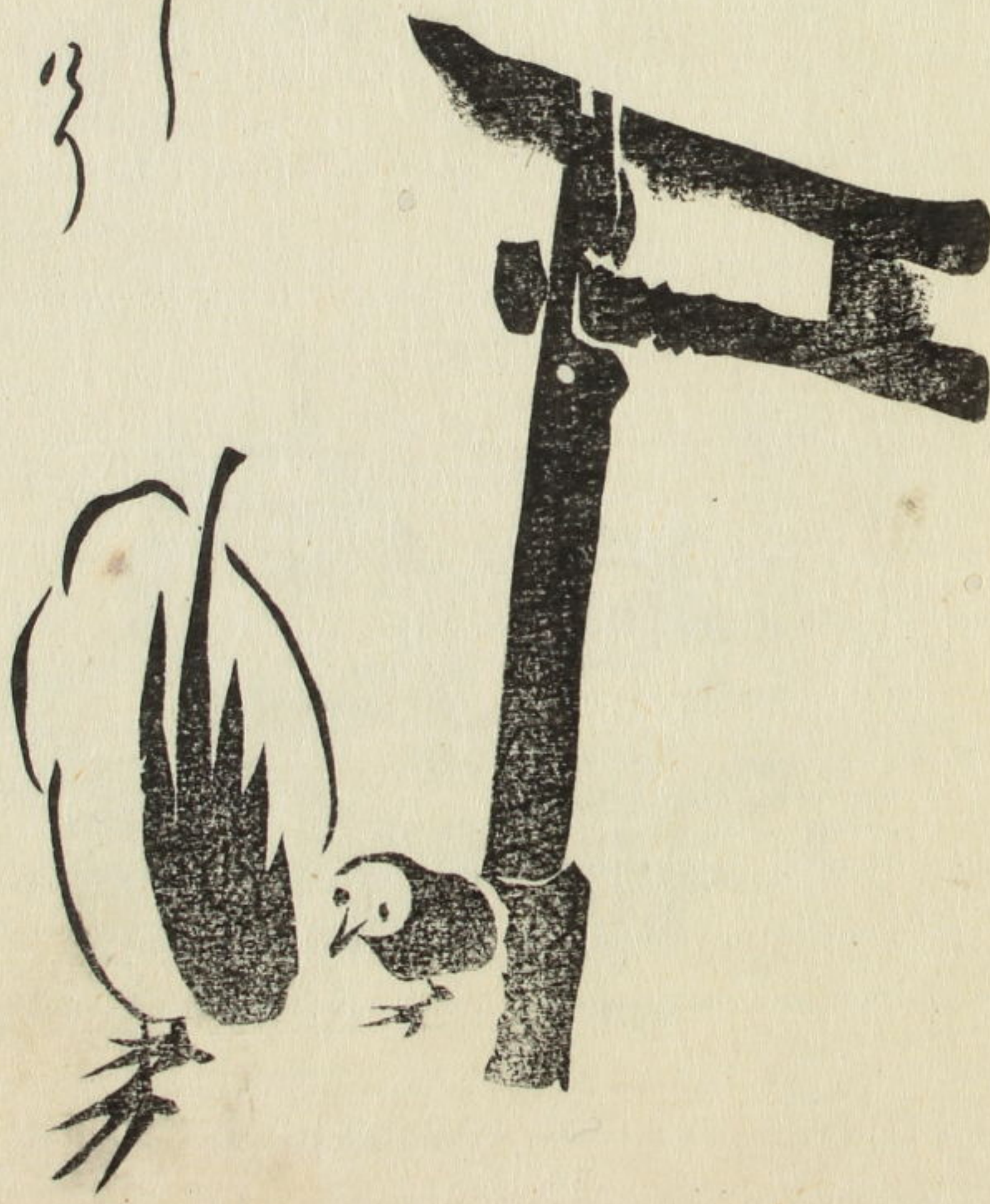


けり

つみ

小菰の芽

多岐小松庵  
暁芳亭梅子



さき

静

色の

多岐松代庵

心静



仰降也

东郊祖里

月降亭芝塚

河内之

書

と



花源より

東郊祖里

高橋

月降

月降

揚子

と

中ノ山

映竹堂

秋月





周深

~~~~~

~~~~~

武川鐵連

物橋

提二

~~~~~

志の



子

蕙共草

孔山

長尾

半始



果

~~~~~

~~~~~

浙屏

~~~~~

~~~~~

符江

~~~~~

張蘇



龍川紙得々看具形

梅開きかきや朝の起心

香消滅する垣志つう也

二稼く言の歩ももまをり

智折りさうせつ種うゆや

夕月の畑をほる水の上

葉のまのりふい秋に

抱て来る刈安深のまけり

酒遊

翠二

渾鯉

鴉葉

菱地

三千秋

香雪

枝乃ちけいとい山科

望人の名をゆてさういやまゆ

機まをりて火桶持ゆ

帳まをりてま師毛の房を

懸うて牛をぶくさうは

目もも親の女家のゆきま

去書の意はまの輝く

小やまをりてまのまをり

雀口

鳩身

玉史

二

報

雲

遊

杖



猿する傍のこころ 鳥歌  
昔きくあふさうのつみみ  
三丸びの多よ 猿のこころ  
陽あふの中へ 画と書里音  
あ地を借りし 舟を借りし  
管のこころ 猿のこころ  
あふのよい 猿のこころ  
あふのよい 猿のこころ

史 鳩 杖 口 二 観 雪 鳩

洞縁のよ 杉の斤枝  
木更よ 猿のこころ  
そよよ 猿のこころ  
あふのよい 猿のこころ  
すく守りし 猿のこころ  
あふのよい 猿のこころ  
遠い市場へ 猿のこころ  
いつまに 猿のこころ

鳩 杖 史 観 雪 鳩



高佛よりくはる病をいふ

下よは舞臺火のくはる病に

日よはあよりかりせ極楽

る一扱一すのまの病をいふ

病をいふれうはる

全

東郷宮下

桐う川や馬を病をいふ

まさう病をいふ

雪

二

才

桃

筆

白羽

梅さる病をいふ

志つとくおれは病をいふ

江戸へ来る馬の病をいふ

安らる病をいふ

病をいふ

病をいふ

病をいふ

病をいふ

新橋街

梅

麻布

馬

言橋街

水

田丁街

山

三



梅の香のこころをわらわすもろりま 小糸巻 馬成

はなはなとあはれなる文書

三馬と並ぶ指の心まをま ほり 可川

さ程はの車よかろく

心ほく 平野 平雅

梅のまのいこころを平

香のほほろもねのかろく 平 尾崎

無恒の梅へ一列集や敷の香

全

東部証跡履志

掃潔しつゝ心、深きまの香 五帆

薫のまのやほの一揮子しつゝ

元りやのまの心と膝の心 心 柳雪

知つぬ人の心 心

心

つゝ 心 思慕

全



梅の枝の

花のよのちりて

たはらぬ

夕月をうら

たはらぬ

柳に

南に

玉葉



書つが

一日おん

舞の山

香鶴亭

作棠

の

障の

まは

香松亭

作完





恋とる

猫も

目

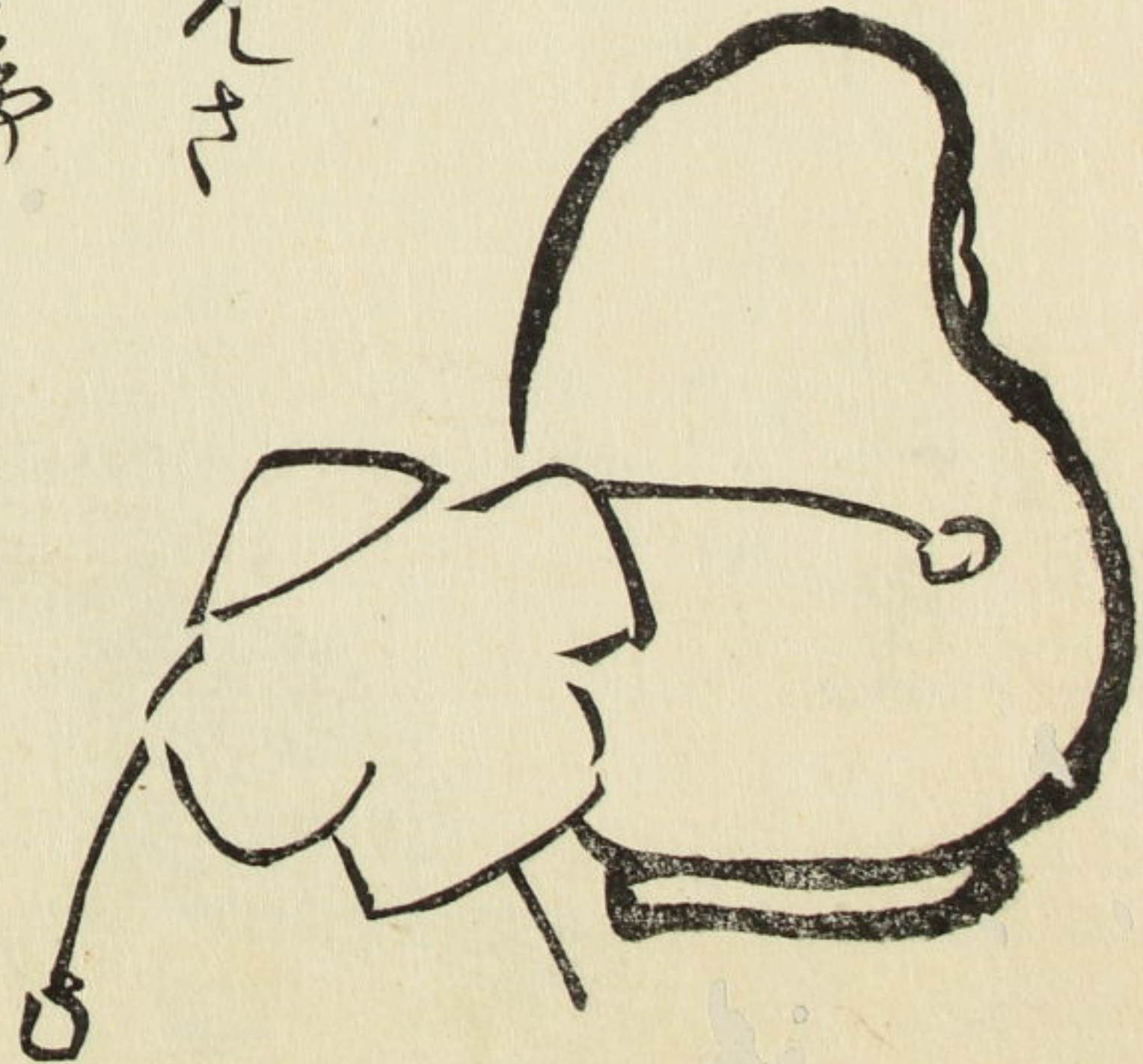
舞

きん

叱る人の

おもしろ

梅の  
高麗



梅

おの

姉

あき

奇合



踏車  
源丹堂







全

道の草花伝

少歌久為志

儀一をトる為

友形

二の草花の

其儀

まゆるとか

少巻

おしきてん

まゆ

ゆゆゆ梅や

伊勢巻

ゆゆゆ梅や

伊勢

全

うきうきおのり

うきうきおのり

うきうきおのり

うきうきおのり

うきうきおのり

うきうきおのり

うきうきおのり

植

伊

伊

伊



東部悠遊

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

全

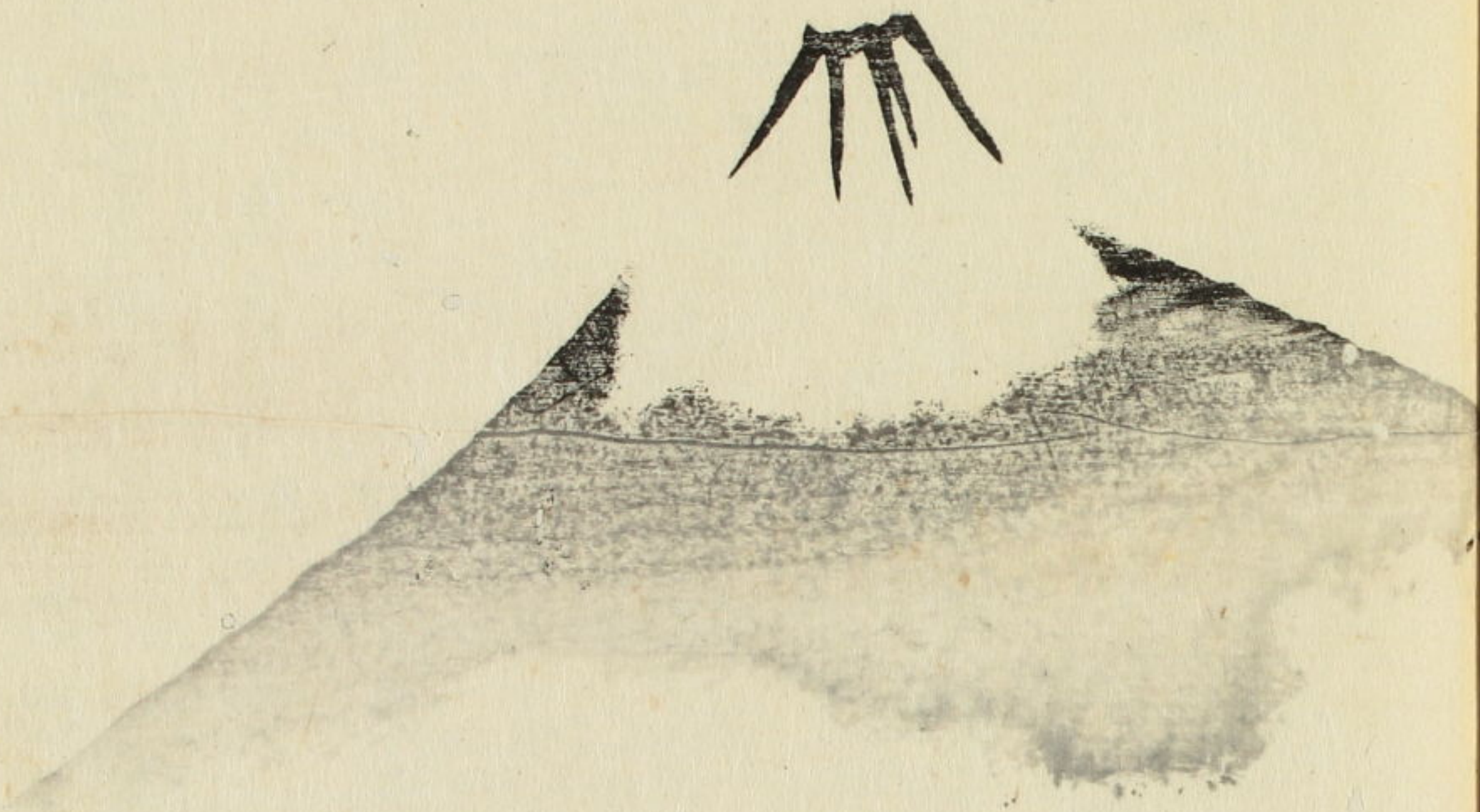
一夫一婦の心

あはれなる花の心は白の心  
夕風

あはれなる花の心は白の心  
夕風

六





二編のついでにさくら梅の花

千里也

梅のついでに梅を折る

野老

七の葉のついでに梅のかげり

春の書

周里

梅を休めぬをさくら梅のついで

梅の書

梅のついでに梅のついで

善水

きつねのついでに梅のついで

全

南信飯中達

野老

岩峯

梅のついで

梅のついで

梅のついで

梅のついで

梅のついで

全

野老







香のの

全

舞の

十寸味

まき

まき

まき

全書本

一巻

鬼書

口の出し

床何ら



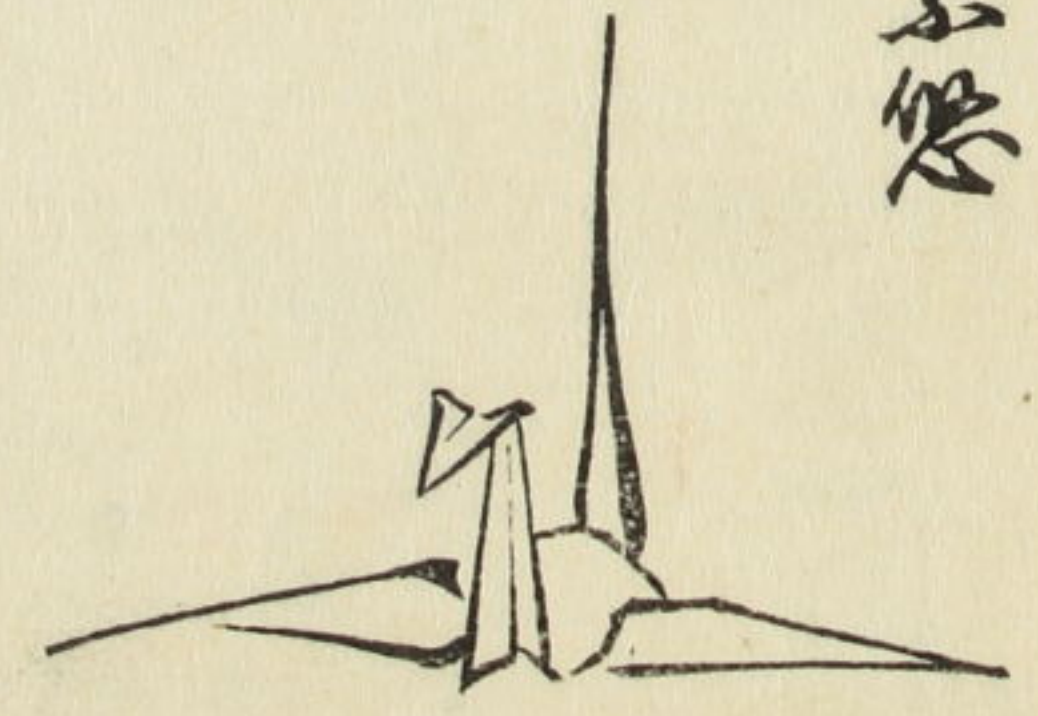
全大久保

まき

まき

まき

まき



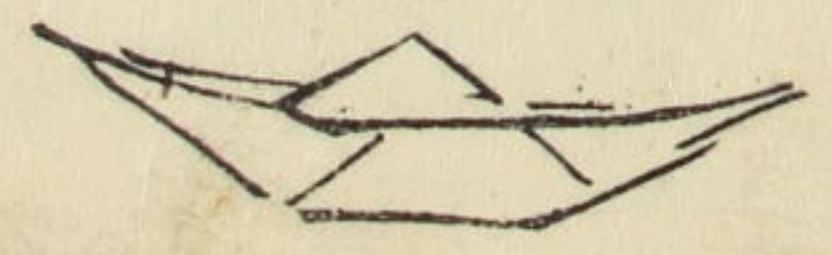
まき

まき

まき

全石田

梅園





梅

か

か

か

か

か

か

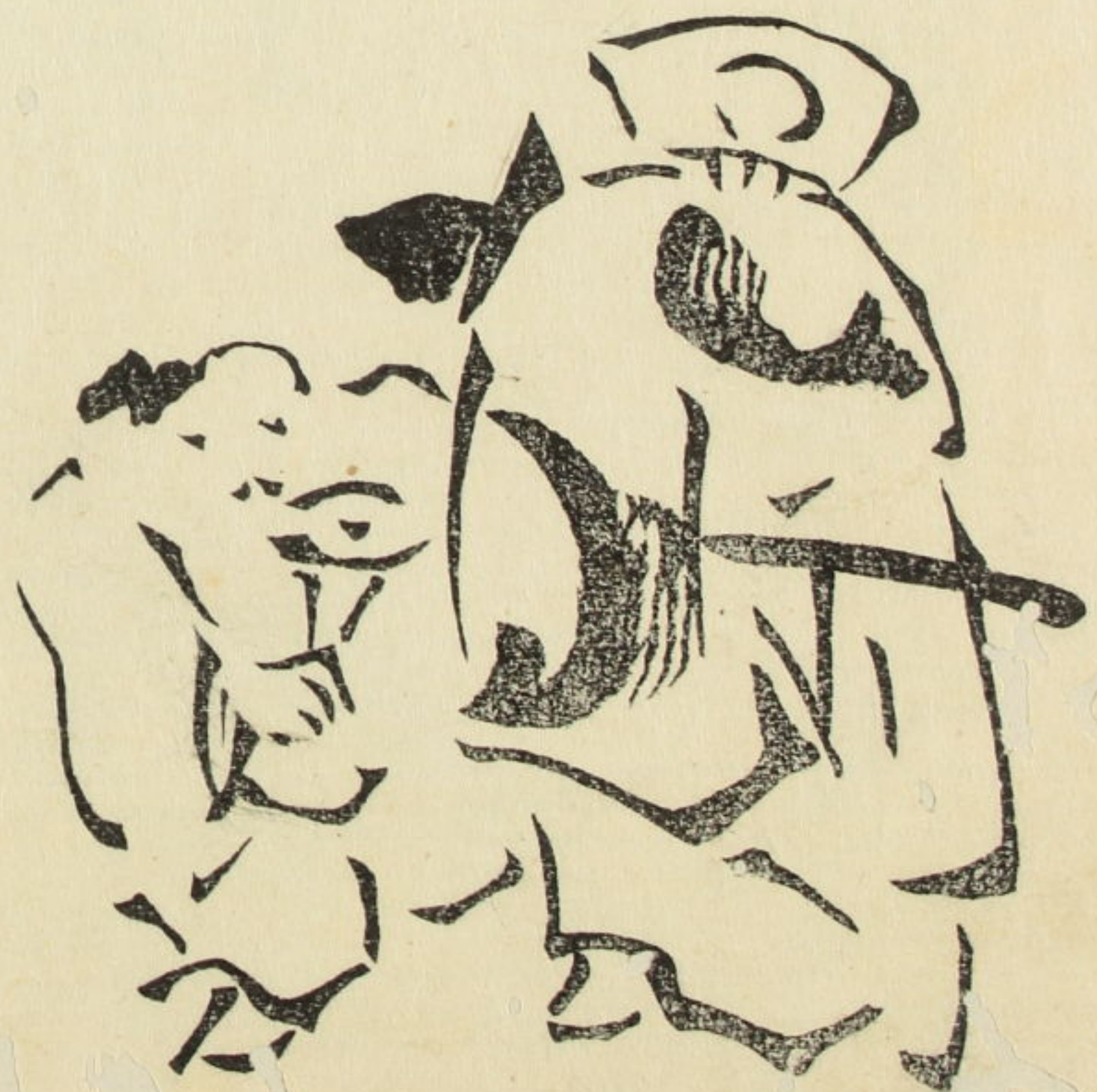
か

えい

えい

全

五葉香風



全

東郷竹門街

洞

社

信や舟中

葉のよ

溪所を物

の

洞

をば

梅

足

社



竹自在まの跡を河つゝ  
残一子ゆゑもあふ  
あふと強て登るはあは  
あふと強て登るはあは  
あふと強て登るはあは  
あふと強て登るはあは  
あふと強て登るはあは  
あふと強て登るはあは

壺丸  
雲子  
七言  
格十  
月九  
子

ゆきと雪のあふまは  
あふと強て登るはあは  
あふと強て登るはあは  
あふと強て登るはあは  
あふと強て登るはあは  
あふと強て登るはあは  
あふと強て登るはあは  
あふと強て登るはあは

十言  
月九  
子



凍魚てさへはらする時の海  
ちとるうのなが牛の孫轉ふ  
昔りう若船持ぬき無斗  
とらんよふまき傍の先く  
心業玉の巻とぬては使け  
江戸の娘俄きう其の輪金行  
燕とそふあつらふの家の業  
降衣御を雨の〜〜と

子 十 九 十 九 子 考

はつとんぬかつ〜〜きと花物  
年と一度の帯習へる若  
と豊子ほの阿布〜〜朝の月  
伴舟り〜〜と磯す新風  
道〜〜と帆系ぬむ杖のぬ  
暖半世〜〜とぬめとぬ  
古〜〜とぬ〜〜とぬぬぬぬ  
都〜〜とぬ〜〜とぬ

子 十 九 十 九 子 考



玉柄人の内がえまのよとのま  
こひおこし花愛子終とす入  
九 鈴

全 東の梶雪橋下達

いよ我梅さくくらん雨の後 洋目  
晴あゆみのさくさくをさくを  
、

梅の中日の書いよあはれ  
まきくくくくくくくくくく  
、 丘 鈴

まきのまきくくくくくくくく  
若雪橋下達  
、 志 鈴

清山のおまきくくくくくく  
湯養とぬくくくくくくくく  
、 浮橋下達  
、 浮橋

柳くくくくくくくくくく  
西窪下  
、 為 一

梅くくくくくくくくくく  
去年六月の書 六 鈴

全



晴雪庵  
昨春

舟の  
たれ

つ  
~~~~~

柳

右

我回

~~~~~

~~~~~





東郷

雪斗舟

吼山

畑の風

田の風

~~~~~

~~~~~

梅~~~~~

柳の~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

吼山男

家太郎





都く香梅下色

昔花弁

山精

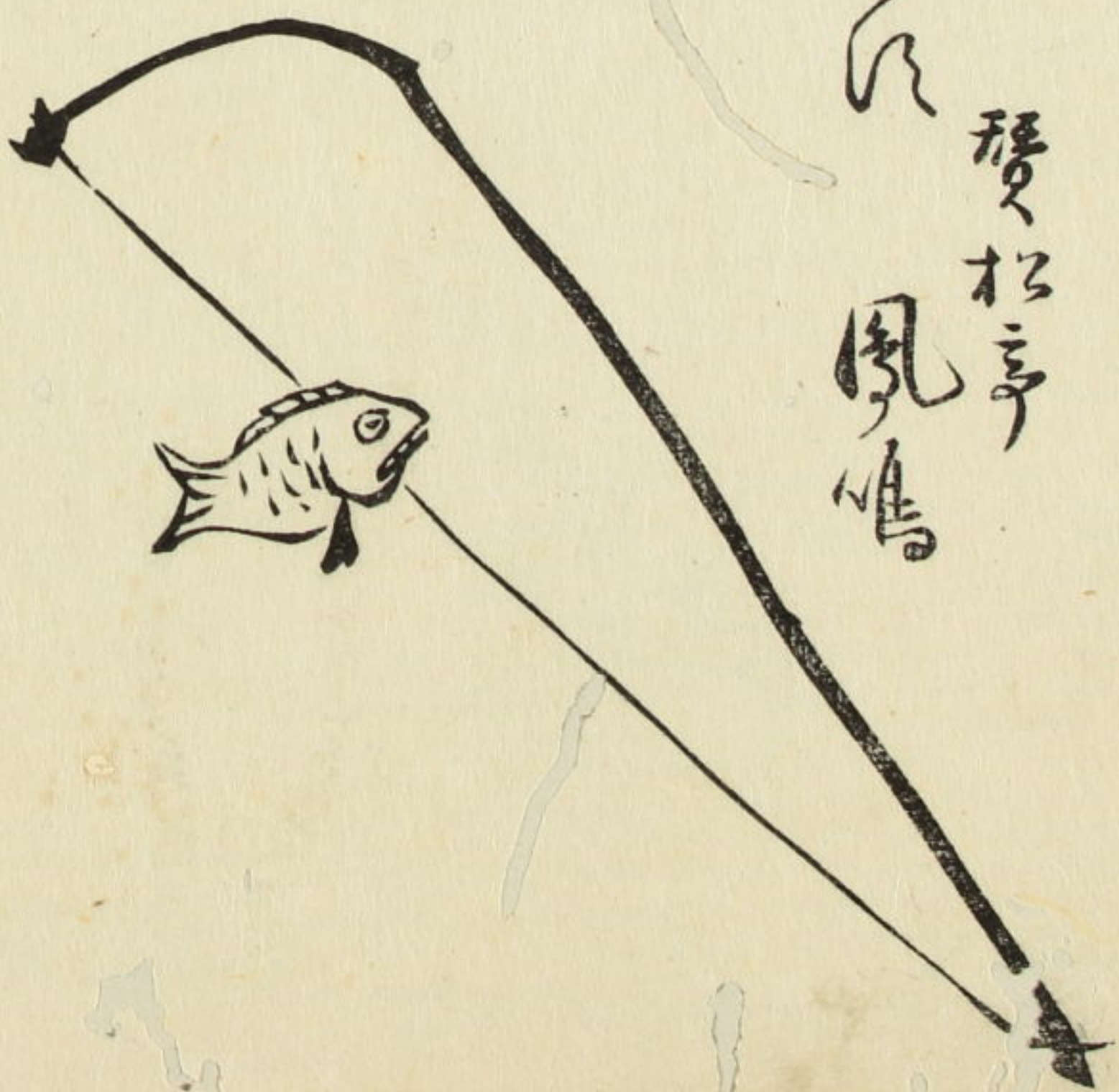
灰けよなるるの池の

香松亭

香の舟

風鳴

松のる



三十七

ふくのうた

法蓮

あまのうた

醉吟

蒼侍のよ

あまのうた

秀吟

あまのうた



三十七



神下

招多

水

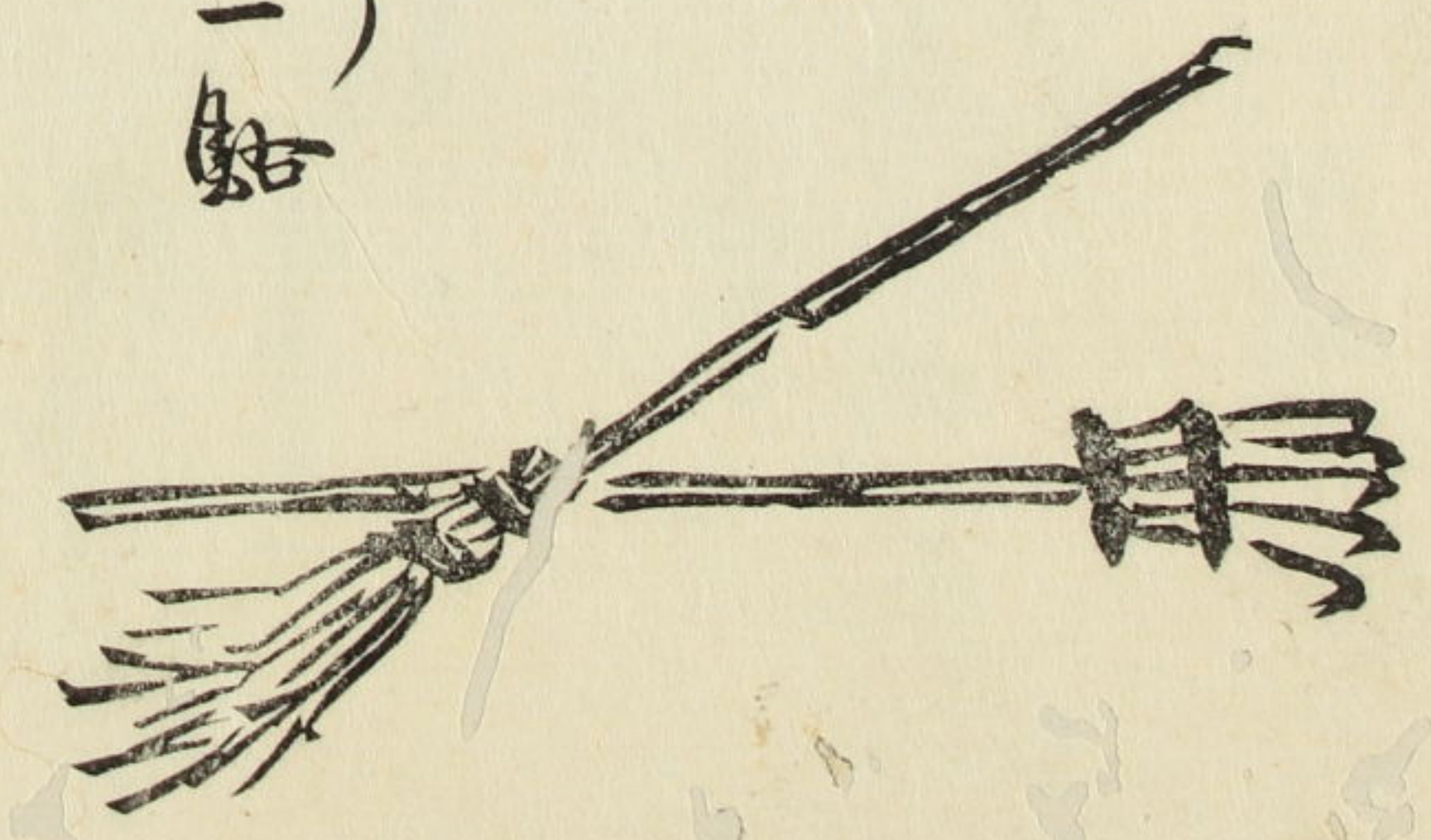
香

香

香

香

香



梅

海

痛

山

香

香

山





漂々

風

—

汐干

うま

若尾橋

采船



箸

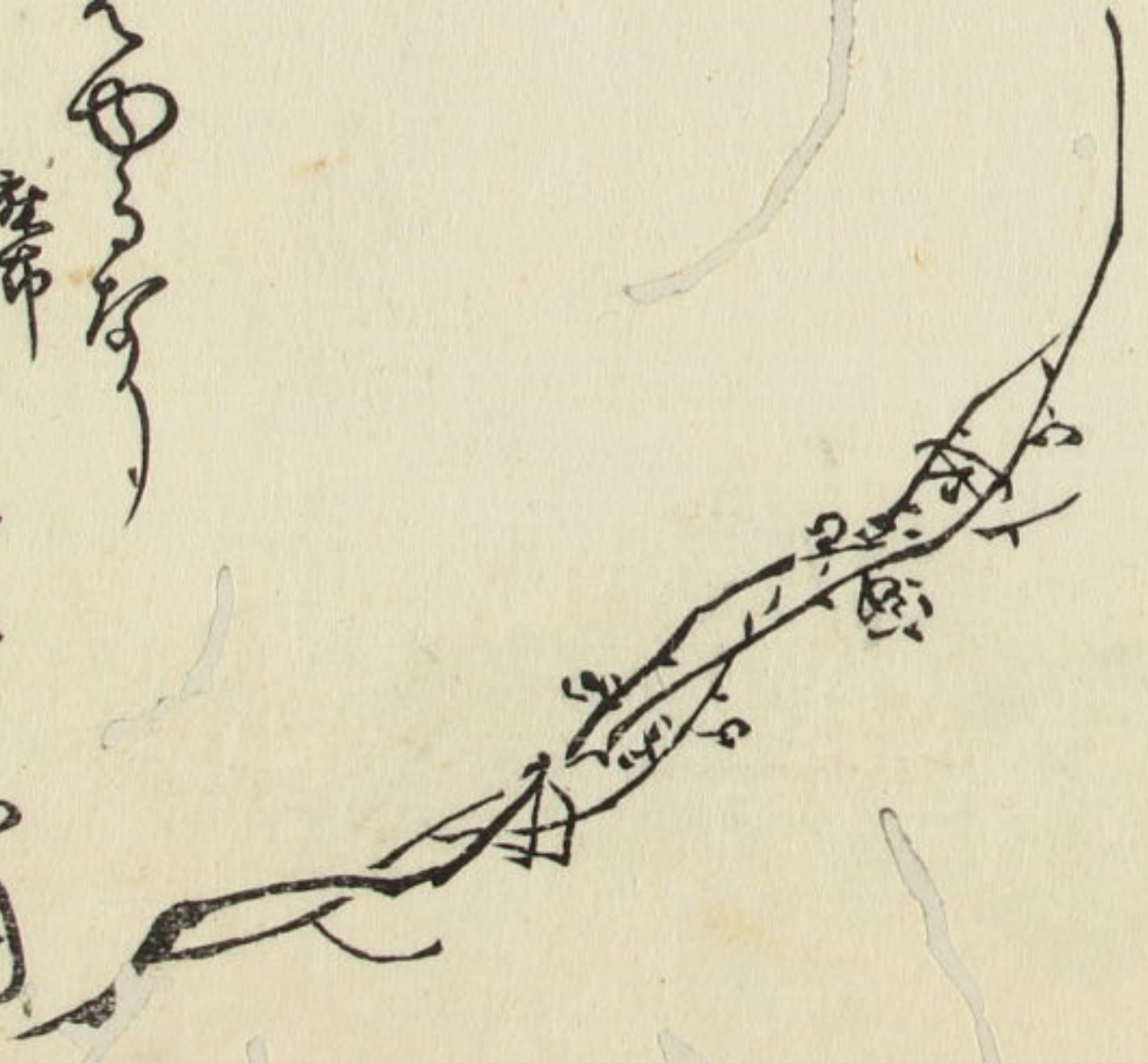
梅

信

桐のえん

多岐下飯店

浮き舟



〜

〜

在帝



夏のよき

浩白

のり

山のり

お梅屋下

高雄新

白英



全

鳥羽節集連

和歌の柳の竹まき〜とあゝあ

雪月桂

往來をたゞ〜りてあすみまき

高崎

うらゝの葉や萩の六面十徳本を

あゝと針や鶴の歌を石の上

暁玉

昔やま〜と〜るまゝに帰

降ゆま〜と〜るまゝに帰

雪人

巻



一本の梅の枝に花を  
池まわりの影輝く  
雲の人の心へ  
雪斗

全

東都雪遊連

美雨くち梅折みかすこ  
十更に梅をわらひ  
可  
除はるる文書

何れもを  
き  
娘  
日の  
ま  
そ  
朝  
ま

三十一



あつちつと日おし梅を中

三枝

うさひ寿も自らやらのやうな

自つ時きる道のけく積るぬ

是道

ちる竿よかけ流るるやむ産

全

左部監三連

巾着やかへりし七の巻

峰水

たかきほほしき海神

も南よ茅薙ふや大所

若國

さし移るる思ふ酔の柳を

妙松

ちやうと笑ひよまう 飯産

弱きいさるる家あるや梅の世

たはるるやんやんも隈なき

榮枝

あつちつと梅のさしつとる家

全

左部監三連

てあつちつとを抽くともな入りぬ

多栗

まろ梅や母のさしつとる家



くさし春やしらうーまのすのち

豆始

まの梅を何をも身取のまの雪

子甲

きくさしのままきえさう梅の枝

井雨

川の瀬はのほまの春の風

梅川

ひささやうおくならうは海船

梅川

六々の川ささくまのの

梅川

清のもまきまの春のまの雨

梅川

花のくさくさめがさく梅の枝

梅川

まのくさくおののまの春のま

梅雨

著つむ水川とけく梅のま

梅雨

一時のるもおのはまの雨

梅雨

二月の柳序まのまの

梅雨

まのまのすの梅の何のまの

梅雨

まのくさくのまのまの

梅雨

全

梅雨桂屋連

まのくさくのまのまの

梅雨

梅雨



水やるんくわりぬる月夜をぬる  
掛川屋  
 馬込め菊の志はくそ本配の  
等席  
 多き燕子ぬるまゝりか  
 虫をぬるまゝりの出る様  
梅平  
 田の水子魚えはくそをみ  
信松  
 石水書一巻き山のゆり板  
花水  
 出おし〜お城子勢り日

全

一篇の松

南徳飯中連

梅中全

五辛

江を

梅のちか

人〜水の

なるる

まのり 全

南雅男か

南木言父里





EDWARDS  
MAY 18

— 625000

— 625000

日曜

今

ふききり  
五枚



樽とらの

看とらとらとら

今

解橋亭

とら

とら  
か

とらの

あとの

りあとの

とら

とら









照津の二しんらや猫の意

五梅庵批子

白梅

全

井のぬく梅をみるは

孤月

全

我勝ふ記一みるこそを

醉信

全

梅のこゝろや梅のまのあて

三曜

見くまはまの原水田が

冬六

まの月影の雪もさうらう

丁河

大尾

田舎の雪よまきよあま

小元

ろくろの梅をみるは

且水

人をみるはまの原水田が

粗文

梅の中の梅をみるは

楠堂

月と日とあつめるは

雪路



五

丁酉年 後之正時喜日

等々何と拾ふにけら歌

たのしみ

たのしみ

吉良

文雨

對山

三十一



